

# 月刊トマホーク通信

No. 22  
87. 8. 20  
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎ 03(498)6095



GREENPEACE



☆環境保護団体「グリーンピース」の海洋非核化キャンペーン・シンボルマーク

★新刊パンフレット

## 反核運動におけるふたつの鍵

### 非核自治体と核艦船寄港

共同執筆

梅林 宏道  
Umebayashi Hiromichi

鏡 豊  
Kagami Yutaka

新倉 裕史  
Niikura Hiroshi

湯浅 一郎  
Yuase Ichiro

内容：

本当の非核を願う市民の手書き！

戦艦ニュージャージーなどの寄港と自治体／非核自治体の可能性

■価格 600円（10部以上 480円）

／明日へのヒント／資料多数 etc

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円  
個人 1口 1000円

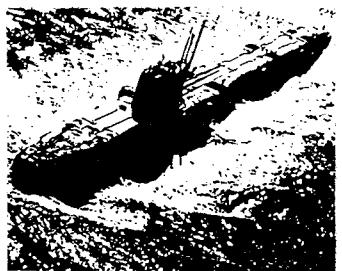
●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円  
個人 1口 500円

●通信会員

年間 2000円

あなたも仲間に



——NIF（中距離核戦力）の全廃の方向へと核軍縮交渉が煮詰まろうとしている一方で、核対決は海洋へと移行しつつある。今回の事件が「原潜探知能力」に関わるものであることの意味は非常に大きいと思う。事実、来日したワインバーガー国防長官は「東芝」を盾にとつて対潜能力の向上を迫った。日本本の産業界に対するこの圧力は今後ますます強められるだろう。

その通りだ。ここで思い出してよいのは八一年から八年にかけてヨーロッパでおこった「ココム問題」だ。

シベリアの天然ガスパイプライン計画に對して、ヨーロッパ諸国はエネルギーの安定供給の見地から輸出に応じる動きをとつたが、レーガン大統領はこれに猛烈な圧力をかけた。この時、ヨーロッパではバーシングII、巡航ミサイルの配備をめぐって反核運動が燃上がっていた。各国の首脳部にも動揺があった。新たな軍拡を目論むときに「ココム問題」をいわば謀略的に持出すやうに共通しているといつてよいだらう。

今回のペンタゴン強硬派の動きは歴史的にみれば逆流、少數派といえるだう。しかし、一見、リベラルで穏健な主張の中にこそ本当の怖さがあるのではないか。たとえば「ニューヨーク・タイムズ」の社説は「そのような破壊的な対応ではなくて、もっと建設的な対応が必要である」と言つている。建設的な対応とは「より実質的な同盟関係の強化である」と。つまり「安保強化」だ。これはより高度なハイテク共同霸權体制、ハイテクによつて

## インタビュー

# 「東芝事件」は新たな軍拡のステッピング・ストーンだ

増田 裕（国家秘密法に反対する市民ネットワーク）

——三月からこのかた「東芝機械ココム違反事件」が大きな政治問題となつてゐる。反核平和運動、ともに海の核軍拡に反対する運動にとってこの一連の事態の持つ意味を考えてみたい。

まず、アメリカは輸出された工作機械によってソ連の原潜の騒音が二十分の一に減少したと主張しているがその因果関係は？

因果関係は全くないというのが私の結論だ。原潜の出する騒音には大きく三種類ある。艦体の水切り音、タービンやポンプなどの艦内音、そしてスクリューオン。

ソ連の原潜では前二者の対策がかなり進んでいて、騒音の低減化の中でスクリュー音の占める比重は小さい。スクリュー音の中でも一番の問題は「キャビテーション・ノイズ」と呼ばれるプロペラの通つた後に発生する気泡の破裂音だ。これは低周波で水中を伝達しやすい。このノイズを低減させるにはプロペラの形や、回転数を工夫する。要するに設計が問題になる。東芝機械が輸出した工作機械や機械の作動ソフトだけがあつてもどうしようもない。時期的な問題もある。ペントAGONのレポート「ソ連の軍事力」（八五年版）には八三年に進水したものから騒音がとりわけ低くなつた、と書かれているが、東芝の九軸制御工作機がバルチック造船所に据付けられたのは八十三年の八月と十一月で間に合うはずがない。またバルチック造船所では一九四九年以降潜水艦は一隻も作つていない。

そもそも、最近アメリカは対共産圏輸出規制解除の方に向かっていた。この一月にはソ連向け天然ガス掘削機械の禁輸を解除した。また議会への諮問機関である全米科学アカデミーがアメリカのハイテク産業が市場を失い衰退することを理由に輸出統制緩和を提言し、それを受けてレーガン大統領の一般教書演説、ボルドリッジ商務長官の規制緩和方針の発表と続いた。

この動きにしつよう抵抗し妨害してきたのがペントAGONだった。産業・科学に対する軍事的統制を強めようとしてきたペントAGONは孤立した。「東芝機械」は彼等が巻返しの材料として使つた要素が非常に大きい。「事件」が日本の新聞で報道されたのは三月二二日だがそれはペントAGONが「統一教会」系の「ワシントン・タイムズ」に情報リークして記事になつたのがきっかけだつた。当初、日本のココム関連の所管官庁である通産省の見解は「ペントAGONの対日強硬派の意図的な行為であり遺憾」いうものだつた。これに対して四月の末にワインバーガー国防長官が栗原防衛廳長官に書簡を送り、問題が一挙に頭在化した。防衛廳はココム所管官庁ではなく異常な外交ルートというほかない。そして、警視庁による東芝機械の強制捜査、アメリカ議会では四月三十日に対東芝制裁法案（ハンター法案）が出される。すべて、ペントAGONと議会の対ソ強硬派の筋書きはどうりにことは運んだ。

——因果関係が非常に薄いとなると「東芝叩き」の本当の狙いは何かということになるが…。

支えられたよりいつそうの軍事一体化につながるだらう。日本の軍拡のステッピング・ストーンに「東芝事件」は最大限利用されるだらう。これが平和運動にとつて最も重要なだ。

——日本では外國為替管理法を改正して「安保条項」を導入しようとしている。産業活動に対する軍事的見地からのチェックが強化されようとしている。いわば「国家秘密法」の先取りというべきもので非常に恐ろしい気がするが。

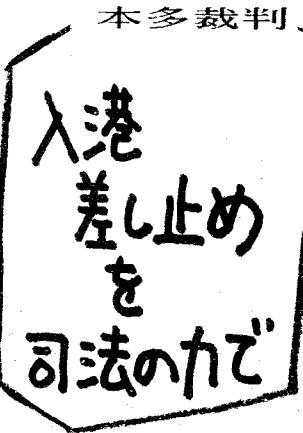
外為法改正案には「安保条項」に加えて六省庁による関係閣僚会議の設置がもりこまれてゐる。そこには警察庁と防衛庁が含まれてゐる。ココムの規制品目には三つのカテゴリーがある。それは武器関係、原子力関係、そして汎用技術（民生技術）。今ココム規制で最大の焦点になつてゐるのが最後の汎用技術なのだ。それらを軍や警察が統制しようというのだから大変なことだ。日本の野放団な産業発展をよしとするわけではないが、軍事優先の路線がアメリカの産業にもたらした悲劇をわれわれは学ばなければならないのではないか。

ともあれ、この「事件」の意味をわれわれはもつとよく知り、強く人々にアピールする必要があるだらう。有効な反撃の立てを一緒に考えていきたい。

（聞き手・文責 田巻一彦）

## 核艦船を止めるあの手この手（下）

新倉裕史（非核市民宣言運動ヨコスカ）



本多裁判

これは横須賀の本多さんという人が飛鳥田さんを弁護団長にしておこした訴訟です。核を積んでいる、あるいは積んでいると判断される艦船の入港を認めるなということを司法に訴えて、司法の力によってその艦船の入港を食止めるということを訴えたわけです。」の裁判で使われている根拠は：勿論、非核三原則とか憲法とか色々あるのですけれども…一番一生懸命弁護士の人達が勉強して、これで行けるのではないかとしたのは、「領海条約」というものです。外国軍がある国沿岸を通過する場合に、その軍艦が沿岸国のかからないから即刻退去するようにということをやつたのです。それはきちんと文書にもなっているわけです。

ソ連の原潜に対して中にはいつて調べたわけでもなく、しかし核搭載である、無害通行とは認められないから領海から立去れということをやつたんだとすれば、アメリカ軍に対する同じようなことを出来るはずだというものがこの裁判の一一番の主旨です。状況証拠的に見れば非核三原則はもう破綻しているわけで、国民を説得することは出来ていない。だからもし、中に入つて立入り調査をすることが無理であるとするならば積んでいないといふ証明書の提出を求める、という」とまで言つて裁判をやつしているわけです。

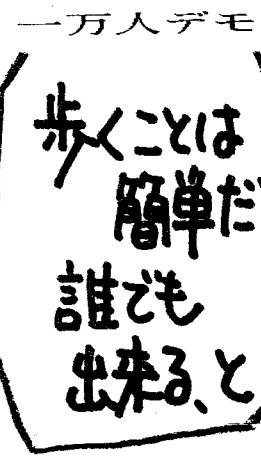
国は原告適格を欠く、つまり訴えの利益がもたらされる公共の利益は主権国家が国際法規制を守らない、あるいは無視した場合にはその軍艦に領海からの退去を要求することが出来る、という国際条約です。無害通行が証明されなければ領海から立去れと要求することができる権限を沿岸国は持っている。何年か前にソ連の原潜が沖縄の周辺で火災を起こしたことがあります。この時日本政府は核兵器を積んでいると判断して無害通行とは認められないから即刻退去するようにとすることをやつたのです。それはきちんと文書にもなっているわけです。

非核三原則についても同じですね。「非核三原則も重要な基本的な政策としての抽象性を有する政治上の指針であり裁判上の教訓が得られるべき現実的、個別的内容を持つものとして具体化されているものではない」。かなり面白い、注目されなくてはいけないやうとりがこの裁判では行われているのです。弁護士の人達はやる」とに意義がある、少なくとも門前払いされないで核艦船入港の問題が、裁判所で防衛庁との間でやりとりがされている事がとても重要だ、だからともかく長引かせて色々な問題を引出そうとやつています。

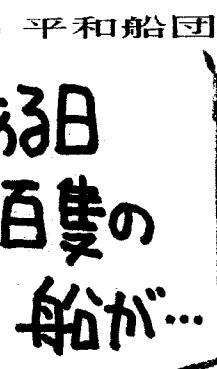
「本多裁判」というのですけれども、非常に真面目な（後のが不真面目というわけではないですけれど）あの手この手の一つです。

手この手をやつているようだけれども、一番簡単なのは毎月横須賀に一万人集まってしまうことではないか」という風にそこの会の代表の人人が言い出したんですね。もう一回、毎月横須賀の基地に向かつて「ノー」という人々が繰返し集まるということを決して單なるダボラではなくて、運動としてやろうではないかと。

そのグループは川崎とか横浜とかが運動の中心なんですが、わりと遠い所の草の根の人達から出てきたというのもこの間の神奈川の反核運動のひとつ到達点ではないかと。これは、ぼくらが言うと、またホラが始まつたと言われるんですけれども、決してぼくらが言っているんじゃない。ぼくらみたいに基地にべつたり張付いてきたグループからではなくて、このトマホーク以降の反核草の根運動の中から現ってきた「神奈川非核交流会」というグループの人達が署名運動とかいろんな草の根的な手法を繰返してやってきたあと、ある例会で、やはり基地にいかなければだめだと結論したんですね。横須賀で毎月デモをやっているという話だから、とにかくこのデモに会として毎月参加しよう、と。大体平均三名から四名の人達が毎月参加するようになります。その後も無く一年になります。



一万人大モ



平和船団

横須賀の仲間で、何年か前にニュージーランド、オーストラリアに反核の旅をしてきて、そこでえらく刺激をされた鈴木シゲキという（笑い）男がいるのですが、彼がこつこつと横須賀でも平和船団をやろうと準備をしてきました。

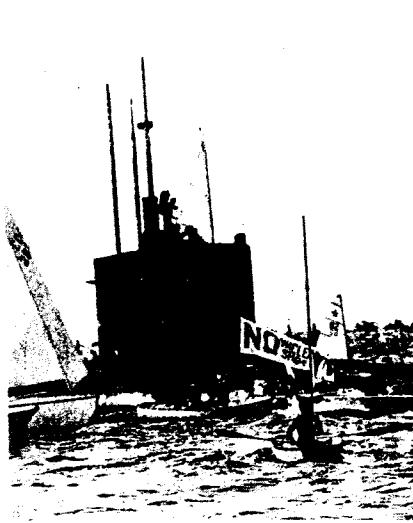
横須賀の平和船団は全三隻です。一隻がゴムボートで一隻がエンジン付きの船です。鈴木シゲキさんという人は新品を買わないといふことで有名な人で（笑い）、エンジンも止まっている事のほうが多いんですね。この間もコモン・デイトの時に横須賀に集まつた首都圏の仲間に展示演習をして、こうやれば船は止められるのだということで、大きな原潜のぬいぐるみを風船を入れて作つて三隻で引張つたんです。ところが、原潜の模型の方が風に煽られて逆に引張られて（笑い）、ちょうど風向きが良くて基地の方にどんどん流れていくんですね（笑い）。その流れつく先

がちょうど自衛隊の潜水艦が三隻ばかり泊まっている所で、一生懸命漕ぐんですけれど（笑い）ジリジリ基地の方に向かっていく。で、自衛隊は驚くのは当たり前で（笑い）：何だか得体の知れないぬいぐるみに引かれたボートが（笑い）近寄ろうとしているんだが、離れようとしているんだか（笑い）、しかし結果的にはどんどん近付いていくんですから…やばい、というんで警戒体制風に自衛官が並んで、偉そうなのがトラメガまで持つてきて（笑い）、さあ何時でもこいと構えた瞬間に風向きが変わって、やつとこつちに戻つて来ました。今でも僕はわざとやつたんではないかと思っているんですけど（笑い）。

そういう本当に船を止めたいという思いを具体的な行為として表現する事を追及するには必要だろうと思います。たまたま僕らは基地のそばに住んでいるという恵まれた環境にありますから、それを使わない手はない。勿論これまで海上行動というのは繰返しやつてきたんですが、これまでのそれとはや違うものを作ろうと考へています。というのは、海上行動に参加された方は分ると思うのですけれど、空しさだけが残ると言つて、近付けるようで近付けない、靴の上から水虫を搔くような感じがあつて、一二回繰返すともう船に乗りたくなくなる。

で、僕達の船団長・ストロングシゲキと（笑い）呼んでるんですけど…はあえて「海上行動」と言わずに「平和船団」と言つんでですね。それは、非暴力直接行動というものの、展開をかなり真剣にやつてみたい。どの程度出来るのか、ということと、チャーター船で止められないかという所だけに関心が行くのではないありがたも大切だと言うのです。だから、限り無く「予行演習」しかやらない、ぶつからない平和船団というのがあっても良い。というのは、僕らの回りでは船を持ってる人はそう沢山いなくて、きつとした船を持つているのは大体お金持ちの人なんですけど、そういう人達が参加するというところまで考えれば、いきなり「海戦」だなんてことになると、デモに来て下さいということさえなかなか言えないし、来ない状況の中でローンの払い終わっていない船が壊されるかもしれないし（笑い）、海上保安庁に船を没収されるかもしれないというのでは船はなかなか集まらないと思う。だから、とりあえずは予行演習ばかりやる。ある日曜日横須賀の港を百隻の船がぐるぐる回る、その気になればこれだけの力は有るんだよという」とを、半分楽しみながらやろうと考へています。

今ある中古のエンジンが何かやるときに必ずまとってしまうというアクシデントばかり起こしているんで、始めは三百万位お金を集めて船を買おうと話していたんですけど、とにかく十万円でエンジンを買おうということになつて、今二万円あつまつてます。ぜひ関心のあるかたは御協力下さい。



## 核艦船拒否を「」の町で

湯浅一郎（トマホークの配備を許すな呉市民の会）

現在呉には海上自衛隊の基地と米陸軍の第83弾薬廠があります。基地は七八年のガイドライン安保以降、新たな動きをしてきます。日米共同演習が年間スケジュールのなかに入り込んで、呉の海自も二月であればチームスピリットに関連した日米共同掃海演習であるとか、七月の下旬には宗谷海峡や対馬海峡の海峡封鎖を想定した演習が行われるとか、そういうことが日常的にやられるようになっています。米軍弾薬庫からの韓国への弾薬輸送もチームスピリットが始まつてから二月ごろ行われているようです。

そういう動きに問題提起をしておかねばならないということは原則として持ちつづけていますが、一番気になるのは、核艦船を中心として被爆県の中にある町が核にまみれているという状況で、そこにこだわらない限り、広島や呉での反核運動は本物にならないんじやないかということです。そこを最大の柱にして運動を進めていこうと思っています。実は今、呉に三隻のアメリカ艦船がいます。

七月九日から昨日にかけて、横須賀を母港に

しているオルデンドルフとカーキ、そしてサンディエゴが母港だと思うんですがメイヤー・フォードというフリゲート艦、この三隻が呉に入りました。オルデンドルフはトマホークの搭載予定艦の中に入っています。こうした事実を私たちがどう受け止めて運動を進めていかなければならぬのか、ということが今まで一番問われているのではないかと思います。

このあと八月三日～五日にブルーリッジが来るといわれています。

関連して最近五年間に呉に来た米艦船のリストを作つてみました。リストを見れば一目瞭然なんですが、米艦船が呉にやつて来る場合はほとんど七月の下旬から八月の上旬に集中しているわけです。米軍の側も被爆県といふことを意識しているとしか思えないわけで、そうだとすれば、七月、八月に毎年のように反復して核積載艦船が入りつけている状況は、それによつて反核の世論がつぶされいくのか、それとも寄港を一つのステップにしながら僕等の側が次の寄港に対しては前回よりも大きな反核の世論を作つていいけるのかといふことが問われているんじゃないかな。そういう意味で非常に大きかったのは、去年の八月にメリルが呉に入った問題だと思います。

メリルは核トマホーク真っ黒艦であるわけで、正直言つて私たちは直前まで本当に入るなんて思つてもいなかつたんですが、それが強引に入つてくることによって、ある意味では私たちの動きが以前よりだんだん広がつてきつことを感じています。たとえばそれまでのアスロック艦に対する私たちの行動は、ほとんど新聞を見て入つたというのを知つて、次日の日あたり一生懸命文書を作つて呉市役所に申し入れをするというのがヤツトコサツ

コだつたんですが、メリルの行動を通して、かなり事前に情報をつかめる体制が出来てきています。当日の朝、少数であっても抗議に行くことが少しづつ可能になった。それから呉に入れる核艦船問題について、広島県や広島市に対する交渉を広島市のグループと呉のグループが一緒にになってやつていける体制が出来ています。

とはいえ既成事実を積み重ねられている現実はあるわけですし、そのことに対してもなんとかしなくてはという思いがあつて、デモとか抗議とか市役所に直接おもむくことが出来ない人でも、なにがしかの意志表示が出来るような手段を作つていかなくてはいけないという発想から、呉市長に核の有無をチェックして核がないことがわからぬ限り呉港には入れないでほしいという要請ハガキを出す運動の話しが持ち上がりました。

具體化したのは、今年の「海の軍備撤廃をめざす国際ウイークエンド」からで、とりあえず一万枚のハガキを刷りました。この運動についてはマスコミもふくめて、反応が良かつたと思います。呉の場合、高教組とか広教組がそれなりの対応をしてくれ、数千枚のスケールで一気にハガキがなくなつて、もう一枚刷りました。

呉に入つてくる核艦船の問題を広島県内の人々が自分の頭の中で問題視していく状況を作つていくために、首都圏の非核コードや反

## ホーネット飛来に抗議

田村俊郎（岩国基地監視連絡会）

岩国での運動状況と米軍基地の動きについて報告します。

市民運動はあまりなく、市教組や県評・社会党、共産党・平和委員会が事故の時に申し入れや抗議行動をするぐらいです。私たち岩国基地監視連絡会も、以前は監視行動をやつたり、少人数のデモをやつたりしたんです。が、現在、監視行動は僕がやつたり市職員組合がやつたり、といった状態です。

基地の状況について言えば、明日十二時にF A一八ホーネットが十二機やつきます。

これに対して県評と地区労の抗議行動があつて、月曜日にはここに参加した人々で抗議を行います。米軍への「思いやり予算」について話せば、米軍専用の橋の工事に九億円、米軍住宅が一棟で十五億円といった金額になっています。この工事にたずさわる日本人労働者の給与負担もあります。

核ホットラインの運動も参考にして運動の方

す。はじめは試験的に埋め立てる予定で、今

埋め立て用のダンプが通る道を作つています。事故は新聞で御存じのように、輸送機が着陸に失敗したりファンтомがスパローミサイルを落としたり、といった事態が続いています。また監視をしていたら、輸送機同士が一分間隔で降りて衝突しそうになるとか、前にPS 1が弾薬庫の近くに落ちたんですが、PS 1を改造したU S 1がまた最近弾薬庫の近くで旋回したりして、失速したら弾薬庫に落ちる危険がある、という状況もあります。それから米兵の犯罪が毎年のようにあるんですが、最近では飲酒運転で高校生をひき殺す事件がありました。

一九八九年から九一年に高性能弾薬庫を建設する予定であることも報道されています。基地の沖合移設の問題も持ち上がっています。はじめは試験的に埋め立てる予定で、今埋め立て用のダンプが通る道を作つています。事故は新聞で御存じのように、輸送機が着陸に失敗したりファンтомがスパローミサイルを落としたり、といった事態が続いています。また監視をしていたら、輸送機同士が一分間隔で降りて衝突しそうになるとか、前にPS 1が弾薬庫の近くに落ちたんですが、PS 1を改造したU S 1がまた最近弾薬庫の近くで旋回したりして、失速したら弾薬庫に落ちる危険がある、という状況もあります。それから米兵の犯罪が毎年のようにあるんですが、最近では飲酒運転で高校生をひき殺す事件がありました。

「フィジー・クーデターにおけるアメリカの関与」  
（『ウェーリントン・コンフィデンシャル』No.36）より

## 南太平洋の 「カリブ化」

〔表題は編集部〕

この六年あまり、フィジーはアメリカにとつて南太平洋における最も強力な「育成」のターゲットであった。それに抗してフィジーは首尾よく非同盟、非核を志向する政府を選出したのである（注1）。この六年間のアメリカの介入には主要に三つの側面がある。

### 1) 政治的支援

マラと同盟党（注2）の育成と支援は資金援助、ホワイト・ハウスによる響應が選挙運動と結び付いて行われた。これはアメリカがいくつかのラテン・アメリカの独裁政権に対して行つたこととそれほど違わない。

### 2) 軍事的支援

この六年あまり、フィジーはアメリカにとつて南太平洋における最も強力な「育成」のターゲットであった。それに抗してフィジーは首尾よく非同盟、非核を志向する政府を選出したのである（注1）。この六年間のアメリカの介入には主要に三つの側面がある。

イギー軍の育成。一般的には南太平洋はアメリカ海軍の領分であるにもかかわらず、フィジーでアメリカが最も関心を示したのが陸軍であるということは重要だ。ラテン・アメリカでもアメリカは陸軍に最も力を入れている。したがつてアメリカとフィジーの軍事的関係がラテン・アメリカ諸国とのそれとよく似ていたとしても驚くには值しない。とりわけ、PAMS（注3）の活動は、パナマでは、数世代にわたるラテン・アメリカのエリート軍人達が、「暴動鎮圧」や「内戦」の名のもとにクーデターのテクニックを吹込まれ、欲求を駆立てられ、実際に訓練を受けているのである。

（1）八七年四月総選挙によるババンドラ労働者・国民党連合参議院議員の誕生。

（2）七〇年の独立以来十七年間政権をなしていた保守政党。カミセ・マラはその党首、首相。

（3）太平洋陸軍総司令セミナー。ハワイの米陸軍西部方面司令部によって組織された太平洋・インド洋諸国の陸軍幹部の交流・養成セミナー。今回の政変の指導者フンブカ中佐も八一年に出席している。

## 3) 労働組合の転覆

アメリカ政府が資金を与え、指導している AFL-CIO（国際自由労連）による労働組合の転覆。これは規模こそはるかに小さいものの、特にフィリップ・アギーがドキュメントしているように CIA の何年にもわたるラテン・アメリカでの活動に非常によく似ている。LCPA（注4）と AFL-CIO（注5）設立を援助したモ里斯・バラディーノは AFL-CI の手本となつた「全米地域労働機構（ORIT）」を牛耳る CIA の要員であることが当初から暴露されていた。スヴァ（注6）AFL-CI 事務所を設立し、運営してい

## ● アメリカはクーデターにどの程度関与したか？

今回の選挙に先立つ六年間のアメリカのフィジーへの介入は全て十分に証拠があり、疑いの余地はない。よくいわれるタウケイ運動（注7）へのアメリカの資金援助については例外的に証拠はないがます間違いない。しかし、現在のところ、アメリカがクーデターに手を下したと決定的に証拠だてる材料は得られていない。

クーデターの手口が見るからに完璧であつたということは一つの重要な手掛りだ。オーストラリアやニュージーランドなどフィジーの隣国でクーデターが準備されている」と

さらに法と秩序の維持に著しく成功した。少なくともアメリカ政府の誰かが彼にやらなければ

## ● ウォルターズの陽動作戦

ヴァーノン・ウォルターズ（注9）の役割はたんに状況を評価し、陽動し、最終的にアメリカの関与にゴー・サインを出しただけだつたと思われる。彼が、まさに展開されようとしているこのドラマのフィジー人の登場人物たちに、誰が、どのように、何時、どこでといった事柄まで実際に指示を与えていたと考えるのは難しい。もしウォルターズがシリオを書いたのならば、彼のフィジー訪問が記憶から無くなるのに十分な期間を置いてから事が始まるような筋書きにしたであらう。しかし、明らかなるようにクーデターは、まずいことに彼の訪問の直後に起つた。

一方では、クーデター劇をもりたてるために仕組まれたことが一見して明白な事件がいくつもあった。これらを見るとアメリカがただ何人かの舞台係を派遣しただけでは無いことをうかがい知る事ができる。それは…

\* ライアン海軍大将のシドニーでの記者会見（注10）。

\* オーストラリア外相ビル・ヘイドンのニュージーランド訪問のオハキ空軍基地訪問（注11）。

ればならないことのリストを与えた」とは間違いない。

## ● ウォルターズの陽動作戦

\* 英国国防長官サー・ジェフリー・ハウの「リビア叩き」のためのニュージーランド訪問（注12）。

\* バヌアツでのリビア人「発見」（注13）。

\* 明らかに CIA に指図されたタウケイ行動と放火活動

\* P.D.U（太平洋民主同盟）の金合ーマラのアリバイ（注14）。

結論として筆者らはアメリカは政変に関与したと判断する。ランプカは多分、適当な政変の担い手としてアメリカにスカウトされたのである。マラはアメリカと十分なコネクションを持つており、彼の側からアメリカ政府の支援を求めたが、あるいはアメリカが支援を申し出たのである。

すべての話からアメリカの作戦を指揮し、あるいは、少なくともその窓口となつたのはウイリアム・ボウア（注15）である。世界反共連盟の指導者でありイラノン・コントラ事件にも顔をのぞかせたジョン・シングロウ（注16）が関与したとすれば、この政変がアメリカのイニシアティブでアメリカによって

たバレンタイン・スアゾはチリで CIA による政権転覆に関与していた証拠がある。総統自殺によって作られた右派労働運動家は「南太平洋のラテン・アメリカ化」、あるいは島々と海からなるこの地域の特質によりそくして言えば「カリブ化」と名付ける」とができるだろう。

フィジーのクーデターはこの「カリブ化」の最初の成果だといえよう。すなわち、アメリカの要求に対しても、かつてマラ民主主義がそうであったよりも同調的なカリブ式独裁政权が誕生したのである。

（5）アジア・アメリカ自由労働協会、フィジーでは七〇年代初期から活動していたが八四年に首都スヴァに事務所を開設、活発化した

（6）フィジーの首都。

（4）太平洋問題労働委員会、八三年に国際自由労連によって作られた右派労働運動家の国際組織。アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、フィジーなどが参加。

（5）アジア・アメリカ自由労働協会、フィジーでは七〇年代初期から活動していたが八四年に首都スヴァに事務所を開設、活発化した

（6）フィジーの首都。

# 反核ホットラインより

●原子力艦入港情報テレホンサービス  
反核ホットラインをしき、原子力軍艦の入港情報テレホンサービスを始めて二ヶ月になります。

●名古屋の参加者から、「名古屋でテレホンサービスを聞くのはどうすればよいか」という問い合わせがありました。残念ながら、現状では東京を中心とした40km圏でしかテレホンサービスを聞けません。

その分、首都圏の方々のがんばりに期待しています。

●テレホンサービスについては、「ブッシュホンでないと聞けないのに抵抗を感じる」という意見が少なからずありました。ワープロやコンピュータへの批判と同じであろうと思します。なかなかむずかしい実践的課題です。とりあえず現状では、私たちには独自の

●テレホンサービスは情報を取り扱っていません。そのため、普段は電話で問い合わせる人が多いです。しかし、電話での情報交換は時間がかかるため、テレホンサービスを始めたばかりの頃は、毎日のように電話で問い合わせがあり、電話回線が忙しくなったことがあります。そこで、電話回線を確保するため、毎日午前九時半から午後五時半まで、電話回線を確保するようにしてあります。従って、もし午後五時半以後に電話して「連絡番号が登録されていません」と反応された時には、重要な情報はなかったものと御理解下さい。

**反核ホットラインの加入者を募る！**

ホットライン参加者を募っています。この数が増えてゆくことが、日本で核艦船を拒否する力が強くなる一つのバロメーターであると思います。ぜひ声をかけ合って参加者を増やしてください。

●ホットライン参加者のしなければならないことは極めて簡単です。三連はがきをトマホーク搭載疑惑艦が横須賀ないし佐世保に入港したときに出していただけばよいのです。入港したという情報はセンターから連絡します。

6・22 原子力潜水艦パリミット（スレッシャー級）、午後3時、横須賀に入港。  
7・3 パーミット、午前10時、横須賀を出港。  
7・7 ホーキビル、午前10時、横須賀を出港。  
7・10 駆逐艦オルデンドーフ（スプルーアンス級）、吳に入港。  
7・11 フリゲート艦カーカ（ノックス級）、吳に入港。  
7・11 原子力潜水艦ボーツマス（ロサンゼルス級）、正午、横須賀に入港。

●参加の申し込みはどのような形でも結構です。「ホットライン参加」と明記下さい。通信・資料費として年間二千円が必要です。こちらからは、核の有無の判断基準になる「非核コード」、三連はがきセットなどをお送りします。

## 入港情報

6・18 ~ 8・17

## 原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗語番号 1071 イレナイ  
クロハ イレナイ

(裏面につづく)

(表面からつづく)

- 7・12 オルデンドーフ、カーカー、呉を出港。  
7・12 ポーツマス、午前10時、横須賀を出港。

7・14 ポーツマス、午前7時、ホワイトビーチ(沖縄)に入港。午前7時半に出港。

7・15 ポーツマス、ホワイトビーチに入港、30分後に出港。

7・16 原子力潜水艦バッファロー(ロサンゼルス級)、正午、横須賀に入港。

8・3 バッファロー、午前10時、横須賀を出港。

8・5 バッファロー、午後1時、ホワイトビーチに入港。午後2時に出港。

8・10 バッファロー、午前10時、ホワイトビーチに入港。10時半に出港。

※8月18日現在で各港への原子力艦入港回数は、横須賀 14回(うち原潜14回)、佐世保 3回(うち原潜2回)、ホワイトビーチ 7回(うち原潜7回)、計 24回(うち原潜23回)。

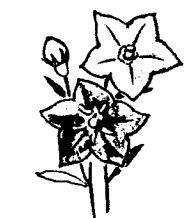
※佐世保の軍問研の佐々木竹一さんの分析によれば原子力艦入港状況に関して次の二点が重要。(1)ホワイトビーチへの入港が急増。復帰後の最高記録は72年の年7回。今年はずでに、タイ記録である。(2)原潜中ではトマホーク搭載予定艦の比率が急増。今年と昨年の上半期を比較すると、両方とも三港で計16回だったが、うちトマホーク搭載予定艦は、昨年8回に対しても今年は何と15回である。

港。  
7・14 ポーツマス、午前7時、ホワイトビーチ(沖縄)に入港。午前7時半に出港。  
7・15 ポーツマス、ホワイトビーチに入港、30分後に出港。  
7・16 原子力潜水艦バッファロー(ロサンゼルス級)、正午、横須賀に入港。  
8・3 バッファロー、午前10時、横須賀を出港。  
8・5 バッファロー、午後1時、ホワイトビーチに入港。午後2時に出港。  
8・10 バッファロー、午前10時、ホワイトビーチに入港。10時半に出港。  
※8月18日現在で各港への原子力艦入港回数は、横須賀 14回(うち原潜14回)、佐世保 3回(うち原潜2回)、ホワイトビーチ 7回(うち原潜7回)、計 24回(うち原潜23回)。

※佐世保の軍問研の佐々木竹一さんの分析によれば原子力艦入港状況に関して次の二点が重要。(1)ホワイトビーチへの入港が急増。復帰後の最高記録は72年の年7回。今年はずでに、タイ記録である。(2)原潜中ではトマホーク搭載予定艦の比率が急増。今年と昨年の上半期を比較すると、両方とも三港で計16回だったが、うちトマホーク搭載予定艦は、昨年8回に対しても今年は何と15回である。

港。  
7・14 ポーツマス、午前7時、ホワイトビーチ(沖縄)に入港。午前7時半に出港。  
7・15 ポーツマス、ホワイトビーチに入港、30分後に出港。  
7・16 原子力潜水艦バッファロー(ロサンゼルス級)、正午、横須賀に入港。  
8・3 バッファロー、午前10時、横須賀を出港。  
8・5 バッファロー、午後1時、ホワイトビーチに入港。午後2時に出港。  
8・10 バッファロー、午前10時、ホワイトビーチに入港。10時半に出港。  
※8月18日現在で各港への原子力艦入港回数は、横須賀 14回(うち原潜14回)、佐世保 3回(うち原潜2回)、ホワイトビーチ 7回(うち原潜7回)、計 24回(うち原潜23回)。

## 短 信



### 重要な国際会議が続く

●北大西洋ネットワーク(NAN)の第五回年次総会が9月17~20日、アイルランドのギャルウェイで開かれる。今年のテーマは「非核の海を実現する」。NANは一九八三年にできた北大西洋、ノルウェー海、バルチック海に面した国々の反核運動のネットワークで、五月の「海の軍備撤廃のための週末」で私たちも国際共同行動をともにしてきた仲間たち。

会の催しには、全体会議、多彩なワークショップ、オイスター祭り(詩、絵画、映画、演劇などのアイルランド文化とビールとオイスター)がある。中学生のための一連の特別セッションもある。来年の国際共同行動をどうするかについても議論される。

●第五回非核独立太平洋会議が11月4~14日、フィリピンのマニラで開かれる。このうち4~7日は先住民だけの会議であり、8~14日

が非先住民も含めた会議になる。今年のテーマは「太平洋民衆の自決と平和のための闘いの前進のために」。フィジー、ベラウ、カナ

ー<sup>キ</sup>ー、東チモールなど、激動する太平洋の現状の中で、重要な会議になるだろう。なお、反トマ運動が参加している「海の軍備撤廃を、三宅島の島民がんばれ」と題された会議に参加を呼びかけている。

!太平洋運動!は、大きくは、この非核独立太平洋運動のもとにあり、太平洋の軍事化の問題について自発的で、かつ排他的ではないイニシアチブを發揮しているネットワークである。

### 三宅島の島民がんばれ

●吳市で開かれた反トマ全国運動の会議で採択された「三宅島へのNLP基地建設のための観測施設建設強行に反対する緊急抗議声明」

は、7月12日付で防衛庁長官と防衛施設庁長官に、8月12日付で環境庁長官に発送された。

●トマホーク阻止京都連絡会では、8月6~9日、四条河原町の高島屋前で座り込みをしながら「三宅島への米軍NLP基地建設を許さない」署名(防衛施設庁長官、防衛庁長官、内閣総理大臣あて)を集めた。全国にも呼びかけ、8月末にむけて集約をいそいでいる。

連絡先: 京都市中京区六角通室町西入ル玉蔵町一二七吉田方、○七五(二五五)一二六一

●三宅島アクションボートは、防衛施設庁、環境庁、官民共用空港の誘致及び建設に反対する会に出す抗議と激励の三連ハガキ運動を呼びかけている。連絡先: 東京都渋谷区代々木一~二〇一四境ビル三F日本はこれでいいのか市民連合・アクションボート係、○三(三七九)〇〇四三

●日本山妙法寺平和行進団は8月26~30日五日間、午前九時~午後五時、「三宅島に基地はないらしい」と訴えて祈念しながら防衛庁の回りを百回まわる行進をする。多くの人々の参加を呼びかけている。

# ベラウ、波高し

支持を得る、ことによつて成立する。投票結果では、憲法改悪が成立したものようである。

しかし、この投票そのものが違憲であるといふ訴訟が最高裁に持ち込まれており、事態は予断を許さない。サリー政権は、改悪された憲法にもとづいて、自由連合協定をめぐる六度の同意がなければ…」に改悪し、核艦船寄港

を認めさせる自由連合協定の承認を容易にしようという企てである。この憲法改訂は、国民の過半数の支持と州の四分の三が過半数の同意がなければ…」に改悪し、核艦船寄港

を行ふと予告している。

うだるような残暑が続く毎日です。みなさ

んお元気でお過ごしでしょうか？

四十二回目の夏を迎えた広島で、長崎であるいはそれぞれの場所で、私たちの仲間も力一杯、反核・平和の創意あふれる行動を開きました。次号では広島・長崎からの現地レポートを中心にそれらの動きをお伝えします。お楽しみに。

(た)

(1) ベージだく)

引起されたプロジェクトであったと考えられる。もしシングロップがいなかつたとしてもなお、アメリカからは相当の支援がなされたと考えられる。(訳 田巻一彦)

## 会計報告

(87.7.6~8.6)

### [収入]

○前月からの繰越	113,950
○会費収入	61,000
内訳	
維持会員	24,000
参加個人	15,000
通信会員	22,000
○カンパ	32,000
○在庫品売上げ	6,600
○反核ホットライン	46,075

(会費、パンフ売上げなど)

<計> 259,625

### [支出]

●家賃(8月分)	40,000
●電話代	820
●郵送費	44,940
●印刷費	6,200
●手数料(郵便振替)	1,040
●反核ホットライン経費	31,000
●次月への繰越	135,625

<計> 259,625

月刊反トマホーク通信	No 22
*発行	トマホークの配備を許すな全国運動
(東京都渋谷区渋谷一丁目九番地)	
青山五〇一	トマホーク通信編集委員会
603(四九八)六〇九五	一〇〇円(通信会員年間一〇〇〇円)
*編集	反トマホーク通信編集委員会
*定価	一〇〇円(通信会員年間一〇〇〇円)

■編集者から■